

チーフ・アナリスト
大槻 奈那

マネックス証券株式会社
www.monex.co.jp

金融政策に関する個人投資家アンケート ～マイナス金利の不人気は定着するも、投資家マインドはやや改善

マネックス証券では、10月31日～11月1日の金融政策決定会合を前に、個人投資家向けに日銀の金融政策に関するサーベイを行った（実施期間：10月7日～11日、回答者数：745名）。

個人投資家の間には、マイナス金利政策に対する否定的な見方がすっかり定着してしまった。「どんな金融政策が取られれば、投資に強気になれるか」という定例の質問に、今回初めて、「マイナス金利の停止（利上げ）」という選択肢を設けたところ、これまで最も支持されていた「ETF/JREITの更なる増額」をおさえ、最多の回答を得た（[図表5](#)）。

「日銀のマイナス金利はインフレ期待醸成に貢献しているか」という問いに対しては、過半数の50.3%の個人投資家が「貢献していない」と答える一方、「貢献している」という答えは11.1%とこれまで同様低位に留まった（[図表1](#)）。

一方、投資や消費を積極化する動きも若干ながら見え始めた。「マイナス金利導入以降、投資意欲が高まった」という回答は、依然として「減退した」とする回答を下回っているものの、比率は前回調査からは若干持ち直し、直近3回の調査の中では最も高かった（[図表4](#)）。

直近の[マネックス証券「個人投資家サーベイ」](#)（16年10月調査）によれば、個人投資家は日本の株式市場に対してやや強気になっている（[図表7](#)）。Brexit問題の落ち着きや大統領選の不透明感後退等の海外要因も関係しているが、金融政策に当面大きな動きはなさそうだという見方が広がったことも寄与しているとみられる。

来週の金融政策決定会合で政策維持が決定されれば、個人投資家のセンチメントは更に回復に向かう可能性が高いだろう。

【金融政策に関するアンケート結果のポイント（10月7～11日実施）】

- 「日銀のマイナス金利導入はインフレ期待醸成に貢献しているか」という問いに対しては、過半数の50.3%の個人投資家が「貢献していない」と答える一方、「貢献している」という答えは11.1%とこれまで同様低位に留まった（[図表1](#)）。
- 1年前に比べて「家計を引き締めている」という回答は、「緩めている」という回答を大きく上回る34.8%に上った（[図表2](#)）。しかし、9月調査よりは消費にやや積極的になっており、「家計を引き締めている」とする回答の比率は低下した。
- 消費に関する補足質問として、今回「現在の金融・経済情勢下では、貯金を増やすべきだと思うか、取り崩して投資や買い物をすべきだと思うか」と聞いたところ、「貯金を取り崩して買い物や投資をすべき」という回答は、「貯金を増やすべき」という回答を若干ながら上回った（[図表3](#)。前回調査なし）。

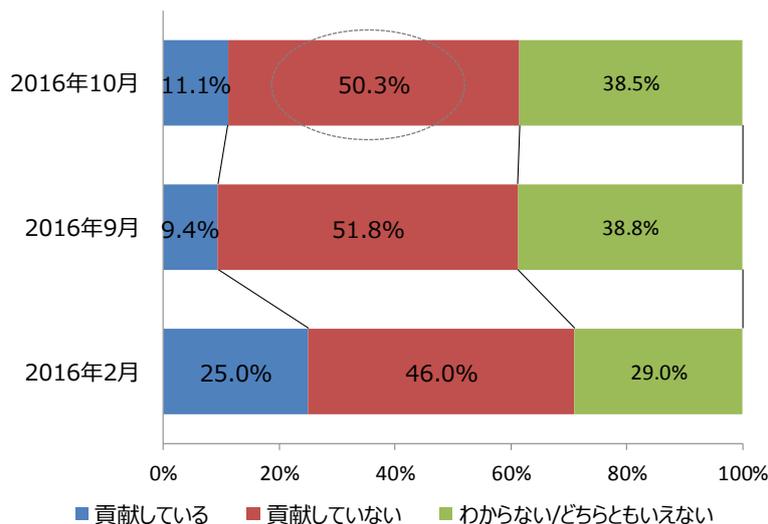
- マイナス金利以降の投資意欲の変化割合について訊ねたところ、前回までの調査同様、「投資意欲が高まった」という回答は、「減退した」という回答を下回った（[図表 4](#)）。但し、「高まった」という回答は 13.7%と、前回調査の 8.8%からは改善し、依然低位ながら直近 3 回の調査の中では最も高かった。
- 「今後日銀がどのような金融政策を行ったら、投資に強気になれるか（複数回答可）」という質問について、今回初めて、「マイナス金利の停止（利上げ）」という選択肢を設けたところ、これまで最も多かった「ETF/JREIT の更なる増額」という回答を上回り、一番多くの支持を得た（[図表 5](#)）。
- 一方、追加緩和の時期の予想を訊ねたところ、「次の金融政策決定会合で追加緩和がある」（今回でいえば 11 月 1 日）という回答は、今回わずか 2.3%で、過去の調査の中で最も低かった（[図表 6](#)）。
- 同時に実行した[マネックス証券「個人投資家サーベイ」](#)（16 年 10 月調査）によれば、個人投資家は日本株に対してやや強気になっている（[図表 7](#)）。

これは、上記の通り、不人気定着したマイナス金利について、“深掘り”されるというリスクが遠のいたことが背景の一つにあると思われる。来週の金融政策決定会合でも、市場の予想通り、マイナス金利の深掘りがなければ、個人投資家のセンチメントは更に改善する可能性があるだろう。

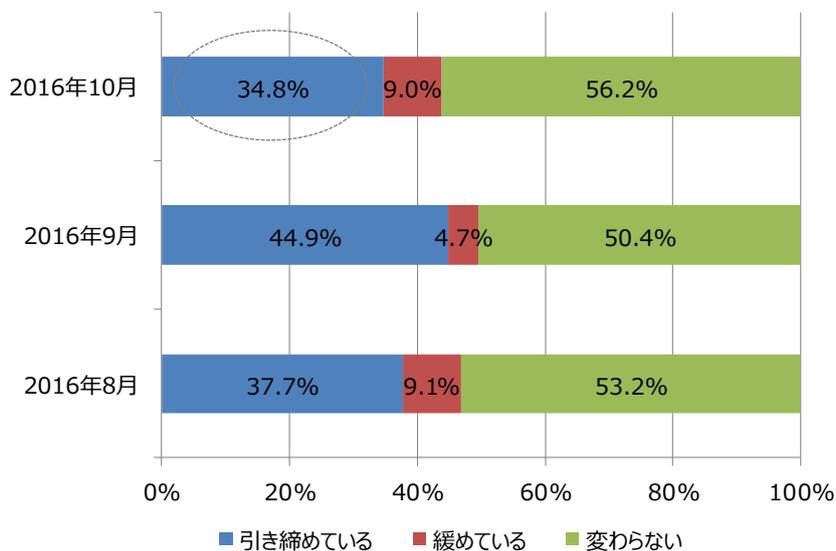
- 回答者のプロフィールについては[調査の概要と回答者の属性](#)を参照。株式投資の経験が 10 年以上の割合が 60%と高いのが特徴である。

【アンケート結果のデータ】（出所はすべてマネックス証券の実施したアンケート調査）

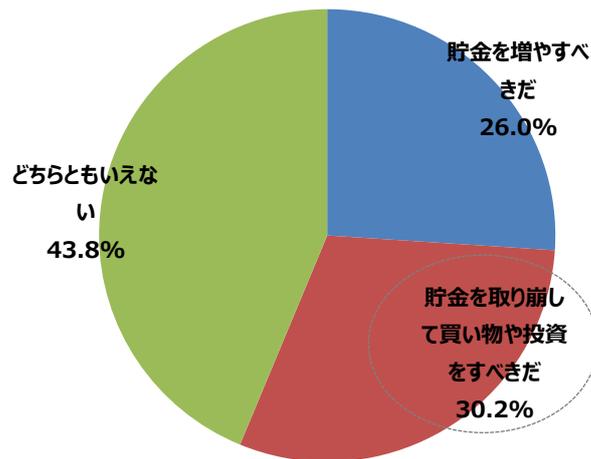
【図表 1】日銀のマイナス金利導入は、インフレ期待の拡大に貢献していると思いますか（直近回答者数 745 名）



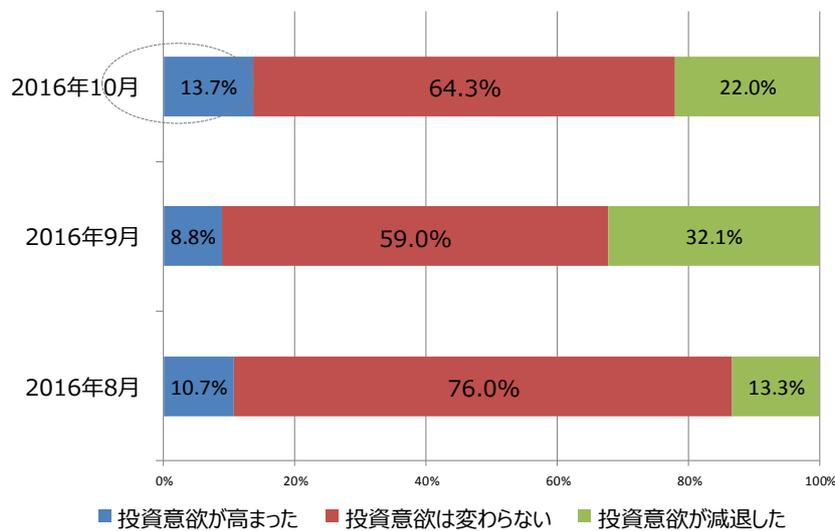
【図表 2】昨年の今ごろと比べて、家計支出を引き締めていますか、緩めていますか（直近回答者数 745 名）



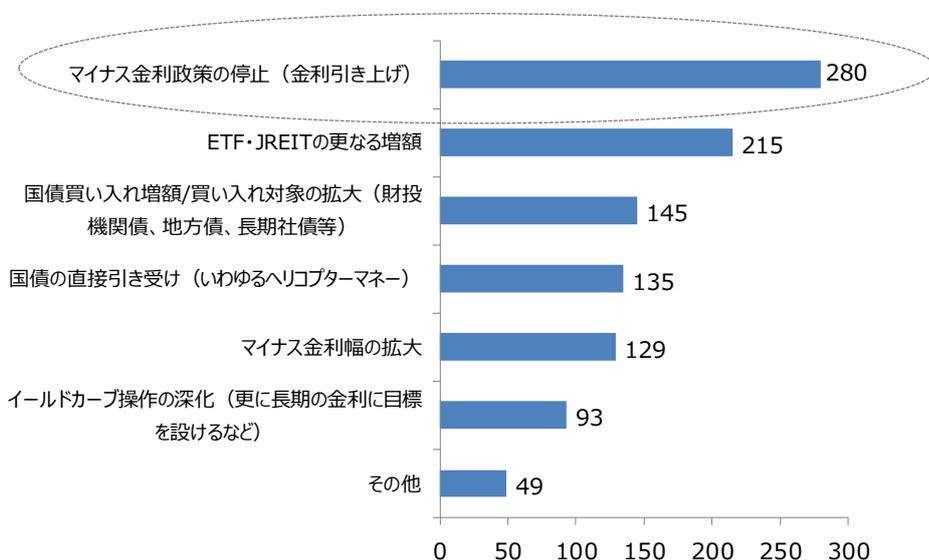
【図表3】現在の金融・経済情勢下では、貯金を増やすべきだと思いますか、取り崩して買い物や投資をするべきだと思いますか（回答者数 745 名）



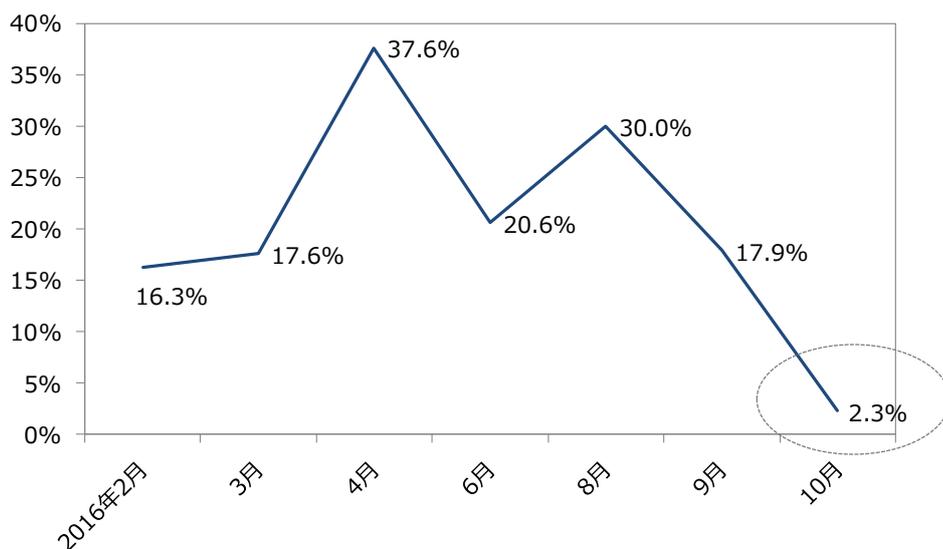
【図表4】今年1月の日銀のマイナス金利導入決定後、あなたの投資意欲に変化はありましたか？（直近回答者数 745 名）



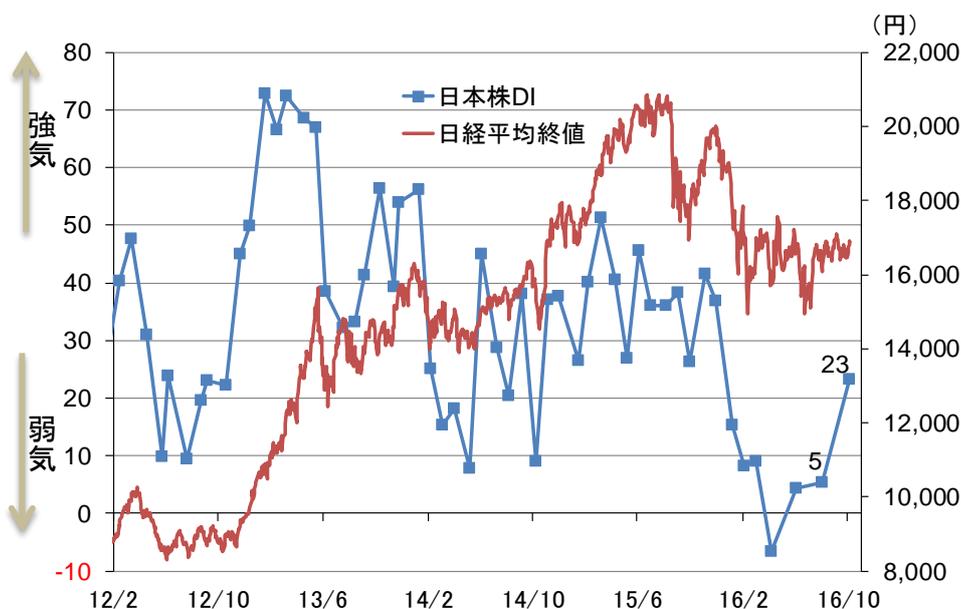
【図表 5】 日銀がどのような金融政策を行ったら、投資に強気になれますか？（複数回答）



【図表 6】 次回の金融政策決定会合で追加緩和が実施されると回答した割合（毎回の調査で「次の追加緩和はいつだと予想しますか？」という質問に対して、それぞれの時点で、最も近い金融政策決定会合で追加緩和があると思うと回答した人の比率。直近回答数 745 名）



【図表7】市場に対する見方 (DI=「上昇すると思う」と回答した割合から「下落すると思う」と回答した割合を引いたポイント)



(出所) マネックス証券「個人投資家サーベイ」16年10月調査

■調査の概要と回答者の属性

調査方式： インターネット調査
 調査対象： マネックス証券に口座を保有している個人投資家
 回答数： 745
 調査期間： 2016年10月7日～10月11日

【性別】

男性	女性
85.6%	14.4%

【年齢】

未成年	20代	30代	40代	50代	60代	70歳超
0.1%	3.5%	10.5%	30.5%	26.6%	21.9%	6.9%

【金融資産】

500万未満	500万～1000万	1000万～2000万	2000万～5000万	5000万～1億	1億以上
24.3%	17.7%	19.2%	23.5%	10.5%	4.8%

【売買頻度】

デイトレ	週に数回	月に数回	数ヶ月に1回	それより少ない
4.0%	16.2%	30.6%	32.1%	17.1%

【株式投資のご経験】

1年未満	1年～5年	5年～10年	10年以上
7.2%	16.8%	16.4%	59.6%

当社は、本書の内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想及び判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。

提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。当社は本書の内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。本書の内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。内容に関するご質問・ご照会等にはお応え致しかねますので、あらかじめご容赦ください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第165号
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会